史料１　鎌倉時代の瓜連

正安３年(1301)三月三日付関東下知状（鹿島神宮文書）

鹿嶋社権禰宜実則子息大禰宜則氏申、常陸国大窪郷内塩片倉村田五町・在家五宇事

右郷者、右大将家、元暦元年於当社為不断大般若転読御寄進之最初、**嚢祖禰宜大夫則親拝**領以降、至亡父実則五代相伝知行無相違、而大夫僧正坊忠源、以件田・在家為新平三郎左衛門尉盛貞跡拝領之由申之、盛貞非地頭、又無名主之儀、但**苽連沙汰人称願**限三ヶ年所買得也、若令寄附彼証文歟、依之難被没収之由、則氏依申之、（中略）当郷社領之条、代々御下知分明也、於正応没収之地者、人領尚以就理非被裁許、況神領難及事可被宛行当給人者、依鎌倉殿仰、下知如件、

正安三年三月三日

陸奥守平朝臣(花押)(北条宣時)

相模守平朝臣(花押)(北条貞時)

某書状(「金沢文庫古文書」)

逐言上、

円順房上洛之時、蒙仰候之処、**久慈西政所**逐電之間、替物なとの事、不能催役、空帰寺ける旨示給候之間、信州禅門方尋申候者、努々無其儀、何様楚勿義覚候よし被仰候上、此間彼代官方より、連々申通候、所詮当所去年年貢分ハ、悉以休済候了、別足を可付申候旨、被其子細、定房主より被令申給候歟、何様連々可致催促候也、

某書状(「金沢文庫古文書」)

昨日自**久慈西**下部到来仕候、当郷之代官等、無別事候之由申候、但近日合戦事候けるに、彼代官之親類少々討死候之由申候、於郷内は無子細候、依目(後欠)

正宗寺蔵「諸家系図(北条)」(東京大学史料編纂所謄写本)

時頼———時[号横田禅師]巌———貞国(**苽連備前入道**)元弘三自害

湛睿替用途請取状土代(「金沢古文書」)

「[(後筆)]タクマノ谷　惣九貫文之内、三貫文ハ已請取之、

所残六貫文是彦部殿後室方より

請取　　替用途事

合

右、自京都御替用

暦応四年十月

「　羽生　惣二十五貫文之内、五貫已請取之、所残二十貫文、是信州禅門分、

久慈西　四十貫文、是ハ光摂寺分常住、十五貫文之内、九貫五百文ハ已請取之、所残五貫五百文、是ハ信州禅門」

史料２　瓜連合戦

延元元年(1336)五月四日付佐竹幸乙丸代某着到状　吉田薬王院文書

着到　常陸国

右、佐竹幸乙丸代云、入野七郎次郎□□□□助房、自今年去建武三二月二五日至于今、馳籠常□(陸)□(国)**久慈郡瓜連左近蔵人正家之楯**、及合戦之□□遅参仕候也、仍着到如件」

建武三年(延元元)年八月日付伊賀盛光軍忠状　飯野八幡宮文書

目安

伊賀式部三郎盛光軍忠事、

右八月廿二日、建武三、常陸國寄**瓜連城**處仁、御敵小田宮内少輔幷廣橋修理亮以下凶徒同國馳向**花芳(房)山大方河原**之間、致合戦忠節候畢、此條搦手大将佐竹奥次郎義高披見知者也、仍被加一見、為備後證目安言上如件、

建武参年八月日

一見了(佐竹義篤花押)」

建武四年(延元二)五月日付伊賀盛光軍忠状　飯野家文書

一、建武二年十一月二日、依佐馬守殿御教書幷佐竹上総入道々源催促、同十二月廿四日、馳参常陸国**佐竹楯**畢、

一、同三年七月廿二日、馳参常陸国**武生城**之畢、

一、同年八月廿二日、同国久慈西郡寄**瓜連城**之処、馳向御敵小田宮内少輔幷広橋修理亮以下凶徒等之間、抽軍忠畢、

一、同年十二月十日、同国久慈西郡寄**瓜連城**之処、馳向同凶徒等之間、同東郡**岩出河原合戦**、致軍忠、分取頸二、同十一日、**打落瓜連城**畢」

史料３　常福寺が瓜連へ

聖冏西蓮社了誉譲状　常福寺文書

瓜連草地常福寺別當□[職]事

右當寺者、**浄喜御寄進地**、**先師了実開山砌**也、然今付属弟子了智房之虚也、守先規可致御祈祷精誠之者也、兼亦退心入滅之後者、可令相継弟子聖紀房、仍副二傳譲状如件

応永廿二年（一四一五）乙未八月二二日

西蓮社了誉

聖冏西蓮社了誉書状写　常福寺文書

常陸國久慈西瓜連草地常福寺々領御寄進状之事者、延文三年戊戌一二月七日浄喜[(　[)大(脱字)](〔　)守于時右馬権頭源義篤御判也、然ぉ去嘉慶二戊辰二月二一日宿中無残所焼失之刻、依流火彼堂炎上之時、御寄進状[(　[)并(脱字)](〔　)坊敷・田畠坪付等、悉以粉失畢。(中略)

三月六日　　西蓮社了誉在判

進上　稲木殿　御奉行所

史料４　常福寺の荒廃

聖聰大蓮社西誉書状寫　常福寺文書

一日大野へ御越候けるよし、今度承候、ゑんてん時分勿體なく存候、(中略)又常福寺のなりゆき候ありさま、くハしく物かたり申たく候へとも、武州へいそく子細候間、大野よりまかり上候、今度不入見参候之條、心もとなく存候、又御状のおもて常福寺ニ悦喜申され候、御茶事ハ無子細御よろこひ候、上方はいまた阿弥陀山に御座候、**うりつらの事は中々しかのふしととなり候、人民更に不還往候、まして僧坊・聖道・禪家、皆他國流浪の事ニ候**、(中略)

横曽根学頭進候　　大野西誉

史料５　瓜連の再城郭化

飯野光隆軍忠状　　飯野八幡宮文書

岩城飯野式部大輔入道光清[隆]申軍忠事

右、佐竹凶徒可令退治旨、岩城・岩崎江下預御教書之間、両郡一族才、今月十日國於罷立、同十五日**依苾連参陣仕**候、長倉常陸介降参仕候訖、又与類山縣三河入道城馳向、同廿四日致拔骨責候之間、光清家子・家人数輩被疵候、此段小野崎安芸方所見分明也、所詮此段達上聞、御感御判下給、備後證存者也、若此條僞申候者、八幡大菩御罰於可罷蒙候、仍目安言上如件、

応永廿四年（一四一七)卯月廿六日

承了　足利持氏花押」

石川氏文書　彰考館所蔵本

去二月七日・四月廿四日、於**常州稲木城**致戦功之條、尤以神妙、向後弥可抽忠節之状如件、

応永廿四年七月廿日

石河左近将監殿　　足利持氏花押

秋田藩家蔵文書　一九城下諸士文書九二方八右衛門重英

就此度忠節、官途遣之候、恐々謹言、

応永廿四年六月一日　　義憲(花押)

水府志料所収文書　入江博氏所蔵　石神組山部村　足利持氏感状

去年十月以来致忠節之条、尤以神妙也向後弥可抽戦功之状如件

応永廿四年七月廿日　　持氏(花押影)

二階堂伊賀入道殿

堀ライン

瓜連城周辺の城郭位置図

中世瓜連が関係すると思われる年表

年号(西暦)	関係する出来事	出典
建武2年(1335年)	11月2日、伊賀盛光、足利直義、佐竹貞義の軍勢催促を受け出陣。12月4日、佐竹福到着。	『飯野八幡宮文書』
建武3年/延元元年(1336年)	佐竹幸乙丸、2月25日から5月4日まで瓜連城で戦闘。瓜連左近蔵人正家及びその与党入野七郎次郎助房これを防ぐ。	『吉田薬王院文書』
	7月22日、伊賀盛光が武生城(常陸太田市高倉町)へ赴く。8月22日、瓜連城・花房山・大方河原合戦。南朝方瓜連城を	『飯野八幡宮文書』・『相馬文書』
	12月10日岩出河原合戦。12月11日瓜連城落城。北朝方に。	『飯野八幡宮文書』・『別府文書』
延元2年(1337年)	結城宗広が息子結城親朝に依上道の回復を指令。	『結城家文書』
延元3年/暦応元年(1338年)	9月北畠親房らが伊勢大湊を出港。暴風雨のため、親房は常陸国東条荘(稲敷市)に漂着。後に神宮寺城から小田城	『茨城県史』
延元5年・興国元年/暦応3年(1340年)	北畠親房が結城親朝へ東海道や瓜連周辺、那須周辺が北朝側に支配されているので、早々の回復を指令する。	『結城家文書』
	11月高師冬、瓜連城へ入城。佐竹義春は笠間城を攻撃。伊賀盛光は茂木城を攻撃。	『結城古文書』
興国2年/暦応4年(1341年)	10月久慈西郡から称名寺へ年貢が銭納される。	神奈川県史3557号(金沢文庫古文書)
	北畠親房、法眼宣宗を通じて結城親朝に東海道、八槻を含む高野、那須のいずれかの道を使用して出陣することを要	『結城古文書』・『相良結城文書』
	北朝勢、瓜連を拠点として南朝側への攻勢をかける。	『秋田藩家蔵白川文書』
貞和4年/正平3年(1348年)	四条畷の戦いで楠木正家戦死。	『太平記』
延文3年(1358年)	常福寺、佐竹義篤より寺地を買う(白蓮塚)	『常福寺文書』
嘉慶2年(1388年)	瓜連宿火災。常福寺、灰燼に帰す。(小山若犬丸の乱(1386～1397)に関係？)	『常福寺文書』
明徳4年(1392年)	小野崎氏、瓜連文阿弥預所の那珂西郡上泉郷中妻村を恩賞としてもらう。(室町幕府)	『阿保文書』・『小野崎家貞家蔵文書』(石神小野崎氏秋田藩家蔵文
応永12年(1405年)	常福寺、稲木常仙(義信か)の手によって寺地を回復する。(寺地は入野七郎次郎助房屋敷等)＊現在地	『常福寺文書』
応永23年(1416年)	上杉禅秀の乱。常福寺は寺基を香仙寺(常陸太田市松栄町)へ移す	『常福寺文書』
応永24年(1417年)	瓜連は鎌倉公方軍の陣所として使用される。稲木城攻略される。稲木氏滅亡。	『飯野八幡宮文書』『石川氏文書』
宝徳4年(1452年)・享徳元年	常福寺、後花園天皇より祈願所としての綸旨を得る。佐竹義俊、義治太田城を追放される。山入・江戸・額田氏佐竹氏	『常福寺文書』
延徳二年(1490年)	佐竹義舜太田城を脱出し孫根城へ逃げる。逃走路は太田→天神林→瓜連→静神社→大山→孫根	佐竹家譜
明応3年(1493年)	瓜連西方、熊ノ堂が返還地として書上に載る。西方は額田小野崎氏の違乱、熊ノ堂は小場氏の違乱	『岡本元朝文書(秋田藩家蔵文書)』
享禄二年(1529年)	部垂の乱	東州雑記
天文4年(1534年)	小場義実岩瀬郷を押領する	東州雑記
天文8年(1538年)	部垂小場合戦	東州雑記
天文9年(1539年)	部垂の乱終結	東州雑記
天文12年(1542年)	常福寺、御花園天皇の祈願所となり寺領を回復する。	常福寺文書
天文16年～天文19年(1546～1549)	佐竹・江戸合戦	妙徳寺過去帳
永禄2年(1559年)	瓜連素鳥神社を佐竹義昭が造営する。	素鳥神社棟札(元禄10年写し)△未見